

④1 ときわ動物園リニューアル整備事業

受賞機関 宇部市

全建賞審査委員会の評価ポイント

老朽化・陳腐化した動物園で、野生動物の生息環境を再現し、生息環境展示に整備した事業。ワークショップやパブリックコメント形式により、様々な方々の意見を取り入れるとともに、自然・環境を学ぶ場として、日本で初めて全園を生息環境展示で本格的に整備を実施するなど、開園50年以上経過した本公園を新たな観光拠点施設として再整備したことを高く評価。

1. はじめに

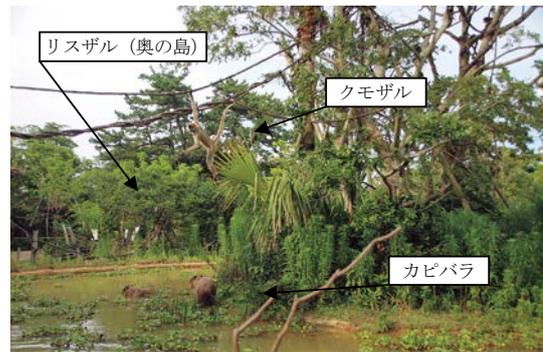
ときわ動物園は都市公園である常盤公園内に位置し、開園後50年以上が経過したことから老朽化が激しく、また、檻中心の陳腐化した展示施設を解消すべく、平成24年度よりリニューアル整備にとりかかり、去る平成28年3月19日グランドオープン（平成27年3月21日に一部先行オープン）を迎えた。サル（霊長類）を中心とした約1.9haの動物園であり、展示動物の生息地をもとに、『アジアの森林ゾーン』など、大きく4つのゾーンに分けて整備を行った。

2. 事業の概要

整備に先立ち、基本計画作成時に4回の市民ワークショップを実施し、それらを踏まえた基本計画（案）に対して、パブリックコメントを募集し、広く意見を収集することから始まった。

整備の方針は、野生動物の多様な生息環境の再現を通じて、動物本来の行動をひきだす『生息環境展示』による整備とし、来園者があたかも旅を続けながら、野生動物と出会う場を創出するため、ゾーン毎に異なる地形、植物を用いて、変化のある景観を造成した。我が国では、はじめての全園の本格的な生息環境展示を実現した。

従来の鉄檻展示を廃止し、水が苦手なテナガザルなどは水堀で周辺を囲い、逸走を防止することで、囲いのない展示を実現した。また、囲いの必要な動物種の展示については、φ1.5mm程度のSUS製のワイヤーネットで囲い、動物と来園者間の仕切りの存在感を大幅に軽減し、視認性を向上させた。さらには、カピバラとクモザル、リスザルなど、同一地域に生息する異種の動物を同じ視界におさめて眺める通景の手法も取り入れている。



カピバラとクモザル、リスザルの通景

3. 事業の成果

従来の檻の中では、行動やその活動範囲が大きく制限されていたが、生息環境展示により広範囲あるいは3次元的な行動がとれるようになり、生息地でのびのびと行動する様子を見ることができるようになった。来園者からも動物を仕切りなく、間近に観覧できるようになったため、非常に好評を得ている。



3次元的な行動をとるテナガザル

4. おわりに

平成27年3月の一部先行オープン以降、50万人以上の方々にご来園いただいている（平成29年5月末現在）。今後も、当園がより魅力のある観光拠点施設として進化し続けられるよう、日々、質の高い運営・整備を行っていきたい。ワークショップ等で本事業に貴重なご意見を頂戴した方々をはじめ、設計・施工に携わっていただいた方々、その他関係者の方々にこの場を借りて御礼申し上げる次第である。